

氏名	齊 藤 富士子
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第533号
学位授与の日付	昭和48年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	新生児混合栄養とその腎臓負担に関する研究
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 橋本 清 教授 水原 舜爾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年、わが国の新生児は施設分娩の普及にともない、出生当日からすでに人工乳を母乳に補足し与えられる場合がきわめて多くなった。これら混合栄養新生児は母乳栄養新生児と多分に異なった栄養代謝を強要されていることが予想される。

著者はこの問題を腎臓に対する溶質負担の面から検討してみようと考えた。そこで、蛋白質ならびに灰分組成の異なる粉乳汁で健康新生児を混合栄養哺育し、第1編では12時間隔で採取した1回尿について総滲透圧およびその起源分画を、第2編では蓄尿採取した24時間尿について溶質出納、尿中排泄溶質量およびその分画をそれぞれ測定し、母乳栄養児の成績と比較した。

その結果、いずれの成績においても混合栄養各群が母乳栄養群より高値を示したが、混合栄養相互間で比較すると、2/3稀釈牛乳相当の蛋白質濃度で高ホエイ蛋白・低灰分組成の乳汁摂取群が他の群より低値であった。

ここにおいて、著者は生後間もない新生児の混合栄養では高ホエイ蛋白・低灰分組成の乳汁を補足した方が他の組成の乳汁を補足するより腎臓に対して少ない負担を与えているという成績をえたが、しかし、一方においてかかる優位性も新生児のきわめて早い時期に消失する事実も認めているので、一般哺育ではさほど重要視する必要はなからうと結論した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、新生児混合栄養における腎臓負担の問題を、とくに溶質負担の面から検討したものであるが、近年とくに新生児に人工乳を母乳に補足し与えられる場合が多くなったことから、またほとんどこれに伴う栄養代謝の面からの研究がなされていなかったことから、新知見に富み、価値ある業績であると認める。よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。